



北海道大学

グローバルファシリティセンター

GLOBAL FACILITY CENTER

オープンファシリティシステムは、英知を結集する創造の場

グローバルファシリティセンターは、過去10年の間に北大が培ってきた先端機器共用システム「オープンファシリティ」を、国際化を加速する本学の改革の歩調に合わせ、グローバルな視座に立って拡充、発展させることを目標にしています。研究・教育の下支えの更なる強化はもとより、機器共用という新たな人と人とのつながりを生み出し得る場を最大限に活性化し、学内外との共同研究の創出や、研究・教育の国際的な連携強化に貢献していきます。



◆オープンファシリティ部門

日本をリードする機器共用システムによる研究基盤環境の整備

- 登録台数 171台 (平成30年3月末)
- 独自開発予約システムによる利便性の向上
- リユース・リサイクルフローの確立 (平成23年度～)
- 講習・サポート体制の充実
- 平成29年度 年間利用者数 33,027人 (延べ数) (うち学外利用者1,300人超)

■オープンファシリティシステム 利用人数実績



◆機器分析受託部門

専門スタッフによる迅速かつ確かなデータを提供

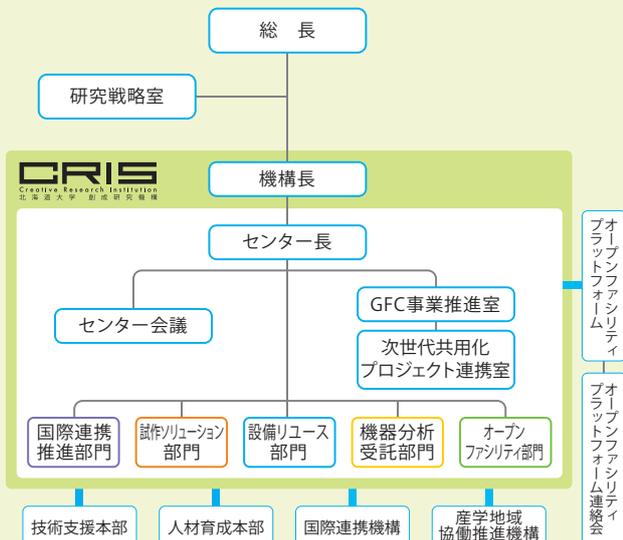
- ニーズの高い4種類の分析項目(※)に対応
- 専門性の高い技術職員による受託分析体制
- 学内・学外問わず受託できる体制を確立
- 平成29年度 年間利用件数 5,130件 (うち学外 586件)

※【質量分析】【元素分析】【アミノ酸組成分析】【タンパク質配列分析】

■機器分析受託サービス 利用料収入実績



◆GFC推進体制



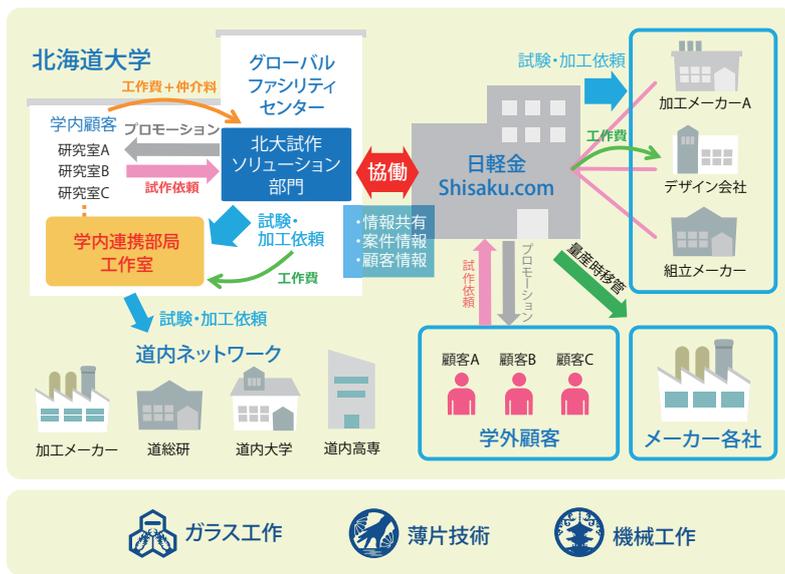
◆次世代研究基盤戦略

学内連携・融合の強化



※・・・「先端研究基盤共用促進事業」(新たな共用システム導入支援プログラム)に採択された6拠点

試作ソリューション部門 ～産学協働によるイノベーション創造～

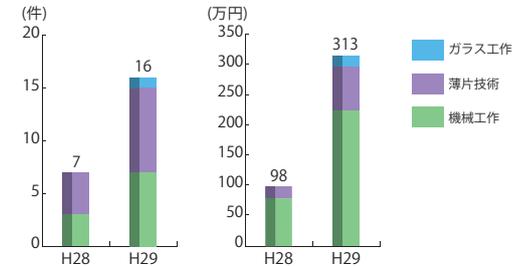


◆イノベーション創造の原点、ここにアリ

大学の研究教育を支える「ものづくり」には、民間企業には無い先端工作機器や技術の伝承があります。また「一点物」の製作に柔軟に応える優れた人材が豊富です。

平成28年8月、学内に点在する工作室とGFCとの連携を構築し、これまでにない新しいタイプの産学協働事業「試作ソリューション」をスタートさせました。

■試作ソリューション事業受託件数・収入実績



国際連携推進部門 ～イノベーション人材育成拠点の構築～



技術支援人材育成基盤の強化

- 技術職員のスキルアッププログラム (技術研修、語学研修) を企画、運営
- 技術職員のキャリアアップ体制の整備に向けた検討と試行
- …ローテーション体制の構築など



先端機器の教育への還元

- アジア拠点校間の共用機器連携の構築
- 先端機器を活用した各レベルでの教育科目を企画・実施



H29年度実施プログラム

- 機器分析技術研修会
 - ・アドバンスコース Solarix
- 機器分析・工作技術交流会
 - ・EPMAセミナー～ビギナーのためのEPMA講座～
 - ・質量分析ユーザーズミーティング
 - ・共用機器を組み合わせ、あなたの実験、もっと素敵にします
- 大学院共通科目
 - ・先端計測分析技術イノベーション特論
- 人材交流プログラム
 - ・鳥取大学
 - ・名古屋大学
- RA・TA支援事業
- 英語スキルアッププログラム

設備リユース部門 ～インターネットショッピングモール「設備市場」～



◆あなたが使わなくなった機器を求めている人がいます

大学が保有する設備の大多数は500万円以下の中・小型機器で、年間100～300台が廃棄され、消耗品も例外ではありません。

設備市場は「譲ってください・譲ります」から「買います・売ります」への入り口です。

※平成30年度までは学内限定のシステムです。中・小型機器のリサイクル・リユースを活性化し、研究環境整備のコストダウン、効率的な設備投資計画、若手研究者の研究オプションの増加へ貢献します。

■取引された物品の一例

